

事後評価シート

調査研究課題名	社会資本運営における金融手法を用いた自然災害リスク平準化に関する研究
担当者	研究調整官 山田哲也、研究官 江岡幸司 研究官 渡真利諭
当初目標と目標達成度	<p>本研究の目標は、さまざまな自然災害リスクが社会資本運営に与える影響について過去の事例等を整理するとともに、現状での自然災害リスクへの対処方法について整理し、現状民間で活用されている証券化、天候デリバティブ、キャプティブ等の自然災害リスク回避・平準化のための金融手法の整理・検討を行い、その導入可能性を探ることである。</p> <p>第1章では、平成16年の最新の災害も含め、幅広い自然災害について網羅的に整理を行うことができた。第2章では、CATBond、天候デリバティブ、キャプティブ等の最新のART(Alternative Risk Transfer)手法について、商品概要、スキーム、メリット、デメリットなどについて網羅的に整理を行うことができ目標はほぼ達成できたと考えられる。</p>
調査研究内容の妥当性	<p><第1章></p> <p>道路、河川に関する自然災害リスクの状況について網羅的に整理を行った。また現行の対応策として災害復旧、土木構造物保険について整理、検討を行い、現状・課題を抽出した。</p> <p><第2章></p> <p>CATBond、天候デリバティブ、キャプティブ等の最新のART手法について、網羅的に整理を行うことができた。データも可能な限り最新のものを使用することができ、有意義な整理・検討を行うことができたと考えられる。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>三井住友海上社の金融ソリューショングループの専門家に政策課題勉強会で講師をいただくとともに、その後も同社ARTグループないし土木構造物保険等担当の費用技術保険グループ、自然災害リスクについて関係する民間シンクタンクに適宜ヒアリングを行い、アドバイスをいただいた。</p>
成果と活用	<p>PFI等の社会資本の民間運営や地方公共団体等への金融手法の導入のための基礎資料としての活用が期待される。</p>
その他	
内部評価委員会意見	